

平成28年12月19日

北栄町議会

議長 井上 信一郎 様

北栄町議会教育民生常任委員会

委員長 斉尾 智弘

教育民生常任委員会調査報告書

本委員会は、次の事件について先進地の調査を終了したので、会議規則第77条の規定により調査結果を次のとおり報告します。

記

1 調査事件

(1) 地域包括ケアシステムの推進について

調査地 岡山県奈義町 生活支援サポーターみつばち
兵庫県たつの市役所

(2) 公立美術館の設置と運営について

調査地 岡山県奈義町 奈義町現代美術館

(3) 地域公共交通施策について

調査地 京都府京丹后市役所
兵庫県豊岡市役所

2 調査期間

平成28年10月6日(木)・7日(金)の2日間

3 調査結果

(1) 奈義生活支援サポーターみつばち

約50人のボランティア組織。平成22年3月介護保険制度だけでは支えきれないと考えた職員が、クリニックの医師に相談し、立ち上げた。職員3人が生活支援コーディネーターを務め、要支援者とサポーターのコーディネートをしている。1時間500円の利用料は、サポーターへ支払われ、行政支援の8万円で運営。

(2) たつの市

予防から介護の相談まで、認知症になっても安心して暮らせる支援体制が構築されている。医療や介護の支援を受けるために自分の意志を伝えるノートや、困ったときの相談先について記入しておく便利帳。サポーター養成（キッズサポーター930人）、認知症カフェ9箇所、はいかい高齢者見守りネットワーク、リハビリをしながら働く場として就労支援につながるカフェなどが充実している。

(3) 奈義現代美術館

3人の芸術家の作品を美術館と一体化させ五感を刺激する、空間美術館である。体験型美術館であり、各分野のアーティストと連携協力した企画やコンサートを毎月実施している。図書館も併設し、県内外の入館者が増えている。

(4) 京丹後市

行政改革を進める中でバスの維持補助額が突出していたため、バスの利用促進施策を実施した。地域交通会議、アンケート調査などを経て200円バスを導入した。各市街地の幹線を既存のバス事業者が運行し支線を市営バスやコミュニティバスで接続した。実施まえは15万人だった利用者が2年目には30万人を突破した。

(5) 豊岡市

路線バスの廃止問題を受けて「助けて欲しい。地元でできる事は、地元です。」との申し出があり、検討をした。公用車を無償貸与し、地元で運営者を確保した。定時定路線運行(週3日)とし、それ以外は予約制とした。

4 所感

(1) 奈義町

高齢社会になり、サポーターの養成は喫緊の課題である。協力的な医師の下、行政、社協が連携した先進的取り組みである。

美術館のコンセプトが明確になっていた。周りの環境とマッチした施設は本町としてもよい手本だ。

(2) たつの市

徘徊高齢者の見守りとしての「ピカット」「シューズステッカー」は本町

でも導入すべき。見守り体制の整備人材育成、サービスの充実は本町でも必要である。

(3) 京丹後市

200円バスは幹線を運行するもので本町でも、検討出来る。問題は幹線に出るまでの移動手段の確保である。検討の価値あり。

(4) 豊岡市

運行は自主的に運営するから地域の移動手段を残してくれという人々と、なんとかしようという職員がいたから実現した。本町でもそういう職員はいるだろう。しかしニーズや引き受けてはあるだろうか。